

# ☆READ 2021 ☆第6弾

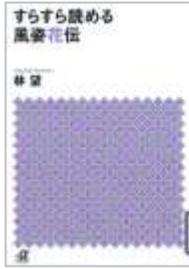


先生方によるおススメ本紹介企画・2021年11月 (原稿回収) IC 木内・室井/IE 杉本 (入力) IC 木内(展示) IC 室井

## 「すらすら読める 風姿花伝」

高校生徒指導部長・保健体育 時村尚孝  
林 望/著・(株)講談社/発行

室町時代に活躍した猿楽の世阿弥が書いたといわれる本書との出会いは大学の講義である。後に生涯の道しるべとなるほど、大きな影響をもたらすことになる。道は違えど修行の心構え、心得や生き方に通ずる様々な内容を得た一冊。古典は日本語ではないようなイメージを抱きがちだが読み解いていくうちに、また、それを現代語訳する方の捉え方により、見方が変わるものである。如何に自分に有益な解釈をするかというのも楽しみな部分である。



## 「面白くて眠れなくなる恐竜」

高校1年C・D組副担任・地歴 伊藤司  
平山廉/著・(株)PHPエディターズ・グループ/発行

不思議に満ちた恐竜の話。本書は最新の恐竜像とその根拠とともにわかりやすく解説しています。鳥や爬虫類とのつながり、絶滅の本当の原因、子育てや食生活など、驚くような説が満載です。その他、眠れなくなるシリーズはすべてお勧めします。



## 「テスカトリポカ」

進路指導部長 兼 数学アドバイザー・数学 鶴殿浩  
佐藤 究/著・(株)KADOKAWA/発行

今年、直木賞を受賞した超問題作。暴力、麻薬密売、臓器売買。その背後のメキシコ中心部アステカ王国の神「テスカトリポカ」への信仰。世界規模の裏社会物語。世界を視野に入れた壮絶なストーリーを是非味わってみてください。



## 「財務省と政治 『最強官庁』と虚像と実像」

高校1年E・F組副担任・国語 川村卓也  
清水真人/著・中央公論新社/発行

「最強官庁」と呼ばれてきた大蔵省(現・財務省)。しかし、その実態は常に政治の動向に翻弄されてきた。著書は、詳細なデータを用い、55年体制崩壊以降の日本政治と大蔵・財務官僚との関係を解き明かしてゆく。日本の財政史を考えるのに最適な一冊。



## 「シャーロック・ホームズ大図鑑」

高校1年学年主任・国語 吉植昭人  
デイヴィッド・スチュアート・デイヴィース、ほか/著  
(株)三省堂/発行

ホームズを子供の時以来読んでいないという人は多いのでは? 実にもったいない。再読・再再読の楽しみに満ちたシリーズの復習に最適なのがこの一冊。人物・あらすじ・時代背景など、要点を紹介してくれています。本の性質上ネタバレがあるのでそこはご注意ください。



## 「おいしい!生地 スポンジ、パウンド、シフォン・・・

焼きっぱなしで極上に」

高校1年G・H組副担任・保健体育 窪谷映美  
小嶋ルミ/著・学校法人文化学園 文化出版局/発行

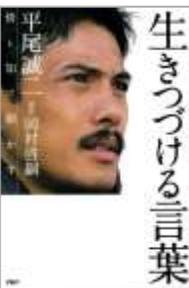
私がお薦めする本は、お菓子作りの本です。この本は、荒川先生にご紹介いただきました。レシピ通り正確に作ると、優しく上品な味のとても美味しいふわふわシフォンケーキが焼きあがります。この味を求めて、何度も何度も作りたくなってしまいます。



## 「生きつづける言葉 情と知で動かす」

高校1年学年主任補佐 兼 公民科主任・公民 川下智史  
平尾誠二/著・(株)PHP研究所/発行

2016年に永眠した「ミスター・ラグビー」平尾誠二氏の深く鮮やかな101の言葉と写真で辿る、その生き様の軌跡。羽生善治、岡田武史、山中伸弥、山口良治、佐渡裕・・・各界の一線で活躍する人々に影響を与えた言葉と雄姿は、力強い羅針盤になるかもしれません。



## 「カラスは賢い、ハトは頭が悪い、サメは狂暴、イルカは温厚って本当か?」

高校1学年アドバイザー・理科 金杉正明  
松原始/著・(株)山と溪谷社/発行

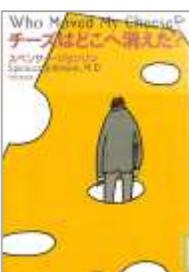
我々は動物を見る際、人にとって有益か害があるか、人から見ての美醜など、つい人を基準に考えがち。動物の形態や行動はその種の中で必要があり獲得されてきたもの。本書を読むことで動物についての見方は変わります。動物名を検索しながら読んでみましょう。



## 「Who Moved My Cheese? チーズはどこへ消えた?」

高校1年A・B組副担任・地歴 片波見和輝  
スペンサー・ジョンソン/著・(株)扶桑社/発行

社会は刻々と変化している。この物語の登場人物は、二匹のネズミと二人の小人。単純な頭脳ゆえに変化に柔軟に対応し、新しいチーズを探し求めるネズミ。複雑な思考ゆえに変化を拒み、古いチーズにしがみついた小人。自分を見つめ直す機会に是非、ご一読ください。



## 「羊男のクリスマス」

事務・辻陽菜  
村上春樹、佐々木マキ/著・(株)講談社/発行

あまり見かけない村上春樹の絵本。聖羊祭の日穴の開いたドーナツを食べてしまったため呪いをかけられた羊男が、呪いを解くため冒険をする物語。果たして羊男の呪いは解けるのか、冒険で出会う仲間たちもユーモアたっぷり興味深いです。子どもでも大人でも楽しめる1冊。

